



活動終了しました!! ～恐山に行ってきました

「津波で亡くなった家族に会いたい」「今、何をしているのかな?」「元気かなあ?」東日本大震災発生後の津波で、大切な家族を亡くしたことで、未だに見つからない家族の帰りを待っているのは、子どもたちも同じ。「死んだら会える?」と真剣に聞かれた時、私は思いました。「この返事は、絶対にごまかしてはいけません。」

東北には昔から根強い「恐山信仰」があります。生きながらにして、私たちはあの世に行くことができる場所。大昔の人たちが残してくれた場所があります。目的は、死を迎えた家族に、一目で良いから会いたいという願いで山に入ります。子どもたちに、恐山の話をしました。



活動終了しました!!

校長、小学4年生の副実行委員長を決め、山あり谷ありの難関問題を子どもたちが一つ一つクリアして叶った、総勢24名での恐山参りでした。イタコさんにはお世話になりませんが、恐山の中にある極楽浜で、大事な家族の名前を子どもたち一人一人が叫び、



「会いに来たよ〜!」「今、どうしてるの〜!」「又、会いに来るからね!」と、亡き大切な家族に語りかけていました。「岩手県と、宮城県と、福島県の車のナンバーがすごく多かったね!」「自分たちと同じ思いの人たちがいることを知り、気持ちを共有してもらった時間だったかもしれません。「恐山に来て思ったけど、一度来たら、三度は来なくなるってことなのかもしれないね!」と、子どもたち同士話していました。

多くの皆様からご支援いただきました恐山参り。おかげさまで死の存在から生きることの意味や価値を見出した、いのちと向き合う有意義な、子どもたちにとってかけがえのない時間でした。(おもかげ復元師 笹原留似子)

極楽浜にある地藏菩薩東日本大震災の犠牲者を追悼するために祀られた鎮魂の鐘「希望の鐘」がおかれています

追記：私の知り合いで、恐山プロポーズされたという人がいます。「恐山は人の人生を、色々と見守っているのよ!」と教えてもらったこともあり、なんてロマンチックな話なんだ!と思ったことがありました。

いのちの授業・復興教育授業 ～感想文から～

東日本大震災発生時の安置所に於いて、津波で亡くなられた方の御遺体復元というお別れのお手伝いをさせていただいた経験から、死の中にある、皆さんが大切にされていることを伝える機会をいただく授業に、全国回らせていただいています。授業後に皆さんから届いた感想文をご紹介させていただきますコーナーです。

中学生の男の子の感想文です。「ぼくは、大切な家族を昨年亡くしました。笹原さんのお話を聞いて、思い出したことがあります。(中略)ぼくは、毎日悲しい気持ちで過ごしていました。あるきれいな星空の夜がありました。ぼくは、星に向かってお願いをしました。「夢でも良いから会いたい。(中略)」そう、願いました。まだ、あれから夢には出てきてくれないけれど、笹原さんのお話を聞いて、ぼくの大切な家族は、ぼくの心の中にいることに気が付きました。(後略)」

中学校3年生の男の子の感想文より。「僕は、大槌町に住んでいました。その時、僕はまだ小学校6年生でした。3月11日学校にいて、突然大きく揺れ出して、先生に「机の下にもぐれ!」って言われてもぐっていたんですけど、大きな揺れで頭を何度もぶつけてバランスが全く取れませんでした。(個人情報のため中略)彼は黒い波が町を襲っていたのを見て、家と身近な方々を亡くした経験を細かく書いてくれました。笹原さんに、これからも震災のことを語り続けて欲しいし、震災は決して軽く見てはいけないこと、そして僕はこの震災によって大事な物が何かを理解出来ました。僕はこれから大人になった時に、若い世代の人たちに、東日本大震災を伝えていきたいと思いました。(各中略あり)」

皆さんそれぞれの立ち位置から、大切な人を思いながら授業を真剣に心に入れて聞いてくださっていると感じました。皆さんと又、お会い出来ることを楽しみにしています!

七夕

あの震災から4度目の夏。この夏も高田の街には、七夕の山車が練り歩きました。ただし、震災前と同じ運行場所を通るのは今年が最後となりました。お盆が過ぎた8月17日から旧市街地はかさ上げ工事のために立ち入り禁止となっています。

どこに面影を探したらよいのでしょうか。ばあちゃんが巨輪車、買ってあげたいね。」って言う娘のゆきのは、この夏、補助輪を外した自転車に一人で乗れるようになりました。そのゆきのが、ばあちゃんに手紙を書きました。字も書けるようになったんですよ。



陸前高田市出身 靴屋のゆきのちゃん)

おばあちゃんへ

おばあちゃん、わたしはさく文のコンクールでしょうをとりました。3いにはいりました。うれしかったです。じてんしゃにのれるようになりました。うれしかったです。学校で1じかんめに、おみせやさんごっこをしました。わたしはくだものやさんになりたかったです。でも一人なので、せんせいがかえていいよっていったので、くつやさんにしました。おばあちゃん、おなじだね。ぜんぶうりきりました。おばあちゃん、くつぜんぶうりきれたかな? Yukino(ゆきの)より (7歳)



天国へいった大切な家族へ

おばあちゃんへ

震災の2週間程前のこと。「あの時、会いに行くんだっ…」と後悔した。お正月に帰省した際に、忙しくておばあちゃんの家へ行けなかった。亡くなった訳でもないのに、まるでもう会えなくなったかのように感じて不思議に思った。次は必ず会いに行こうと思ったんだけど、もう遅かったね。

おばあちゃんにはいろんな事を教えてもらいました。でもそれに気付いたのは、大人になって、いろんな経験をしてからで、「ありがとう」を伝えるの間に合わなかった。たくさん心配もかけてしまったよね。お話ししたい事がいっぱいあるけれど、会える日まで胸にしまっておきます。大切なことをたくさん教えてくれた大好きなおばあちゃん、「ありがとう」

(宮古市出身 Y)

「いのち新聞」へのお手紙や活動資金のご寄付ありがとうございます。お問い合わせ先 〒024-0024 岩手県北上市中野町2丁目28-23 株式会社 桜内「いのち」新聞編集部 ☆お電話での問い合わせはご遠慮ください。ハガキ又はお手紙で受付けています。ご支援・ご寄付のご案内 北上信用金庫 東支店 口座番号 0103488 預金種類 普通預金 口座名称 いのち新聞 代表 笹原 留似子 ご支援いただけるスポンサーの皆さまには、活動報告を別資料として報告致しております。ハガキや封書にて住所・氏名・電話番号・メッセージなどをご記入いただき、いのち新聞編集部宛に郵送ください。